

CASBEE® - 建築(新築)

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 (使用評価ソフト: osk_CASBEE-BD_NC_2016(v2.1))

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)吹田市千里山虹PJ新築工事(B)	階数	地上9階、地下2階
建設地	吹田市千里山虹が丘9-1の一部他	構造	RC造
用途地域	第一種中高層住居専用地域	平均居住人員	552 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2021年3月 予定	評価の実施日	2018年6月6日
敷地面積	5,538 m ²	作成者	株式会社IAO竹田設計 大阪第一事務所
建築面積	1,916 m ²	確認日	2018年6月6日
延床面積	12,194 m ²	確認者	株式会社IAO竹田設計 大阪第一事務所 矢川修宏



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO ₂ (温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価(レーダーチャート)
<p>BEE = 1.3</p> <p>S: ★★★★★ A: ★★★★★ B: ★★★★★ B: ★★ C: ★</p>	<p>標準計算</p> <p>30% ☆☆☆☆ 60% ☆☆☆ 80% ☆☆☆ 100% ☆☆ 100%超: ☆☆☆</p> <p>このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです。</p>	

2-4 中項目の評価(バーチャート)		
<p>Q 環境品質</p> <p>Qのスコア = 3.0</p>		
<p>Q1 室内環境</p> <p>Q1のスコア = 3.3</p>	<p>Q2 サービス性能</p> <p>Q2のスコア = 3.1</p>	<p>Q3 室外環境(敷地内)</p> <p>Q3のスコア = 2.5</p>
<p>LR 環境負荷低減性</p> <p>LRのスコア = 3.4</p>		
<p>LR1 エネルギー</p> <p>LR1のスコア = 4.1</p>	<p>LR2 資源・マテリアル</p> <p>LR2のスコア = 2.8</p>	<p>LR3 敷地外環境</p> <p>LR3のスコア = 3.3</p>

3 設計上の配慮事項		
<p>総合</p> <p>断熱等性能等級4を取得予定であり、良質な居住環境を確保するとともに、長期的に環境に配慮した建物を計画している。</p>	<p>その他</p> <p>なし。</p>	
<p>Q1 室内環境</p> <p>集合住宅という用途から、騒音等に配慮した計画とし、また、居住空間の質を確保する為に、断熱性について過不足なく計画する事で、快適な居住空間とする。</p>	<p>Q2 サービス性能</p> <p>長期的に快適な利用が可能となるように、意匠・構造・設備が一体となり、建築物全体の機能や耐久性に配慮している。</p>	<p>Q3 室外環境(敷地内)</p> <p>建物の外壁は周辺のまちなみに調和する色彩を計画し、道路に面して植栽を計画し、良好な景観計画を試みている。</p>
<p>LR1 エネルギー</p> <p>LED照明を使用するなどにより環境負荷低減を試みている。</p>	<p>LR2 資源・マテリアル</p> <p>分別が可能な躯体と仕上げ材を使用している。</p>	<p>LR3 敷地外環境</p> <p>付置義務台数以上の自転車設置場を確保し、利用者の利便性を図っている。</p>

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2, LR1, LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

【建物概要】	建物名称	(仮称)吹田市千里山PJ新築工事(B敷地)
	建設地	吹田市千里山虹が丘9-1の一部他
	用途/区分	集合住宅

【評価結果】	CASBEE 総合評価		B+																
①	CO2削減		4																
②	みどり・ヒート アイランド対策		2																
③	建物の断熱性		4																
④	エネルギー削減		5																
⑤	自然エネルギー直接利用		—																
	再生可能エネルギー 利用施設の導入状況	<table border="1"> <tr> <td>太陽光発電</td> <td>—</td> <td>風力</td> <td>—</td> <td>地熱</td> <td>—</td> <td></td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>太陽熱利用</td> <td>—</td> <td>水力</td> <td>—</td> <td>バイオマス</td> <td>—</td> <td></td> <td>—</td> </tr> </table>	太陽光発電	—	風力	—	地熱	—		—	太陽熱利用	—	水力	—	バイオマス	—		—	
太陽光発電	—	風力	—	地熱	—		—												
太陽熱利用	—	水力	—	バイオマス	—		—												

	エネルギー消費量の報告	対象外
--	-------------	-----

【評価項目】			
項目	評価内容	スコア	評価
① CO2削減	CASBEE「LR3-1」のスコアによる評価	3.9	4
② みどり・ヒートアイランド対策			
生物環境の保全と創出	CASBEE「Q3-1」のスコアによる評価	2.0	2
敷地内温熱環境の向上	CASBEE「Q3-3. 2」のスコアによる評価	3.0	
温熱環境悪化の改善	CASBEE「LR3-2. 2」のスコアによる評価	2.0	
③ 建物外皮の熱負荷抑制	CASBEE「LR1-1」のスコアによる評価	4.0	4
④ 設備システムの高効率化	CASBEE「LR1-3」のスコアによる評価	5.0	5
⑤ 自然エネルギー利用	CASBEE「LR1-2」のスコアによる評価	2.0	—
エネルギー消費の実態把握に努める	エネルギー消費量の実績を3年間報告する。	報告する 報告しない	-

【その他】		
	技術の名称	考慮事項
先進的技術の導入		
特に配慮した事項		